日高徳洲会病院　広報誌[インカラ]

Inkar -インカラ- vol.3

- TOPICS -

院長の独り言
糖尿病デーイベントを開催しました
飲み薬と点滴の違いとは
インフルエンザ予防接種のご案内
マスク着用のお願い
年末年始の診療について

インフルエンザ予防接種のご案内

接種期間：平成30年11月1日～平成31年1月31日

料　　金：お住まいの地域や年齢によって異なります。
詳しくは受付か電話にてお問い合わせ下さい。

接種日時：【一　般】　月・水・木（祝祭日は除く）
15：30～（基本は午後の時間帯ですが、難しい場合はご相談下さい。）
【小　児】　月・火・水・木（祝祭日は除く）
13：30～
※ １歳未満のお子様は効果が低い可能性があります。
接種を希望される方はご相談下さい。
※ インフルエンザ予防接種時の他ワクチンとの同時接種はできません。

受付方法：窓口、またはお電話（0146 - 42 - 0701）にてお申し込み下さい。

予約制となります

マスク着用のお願い

インフルエンザなどの感染症が流行しています。病院内での感染拡大を防止するため、せきや発熱などの症状がある方は来院の際に必ずマスクの着用をお願い致します。また、せきや発熱の症状がない方につきましても、病院内で感染することを防ぐためにマスク着用をお勧め致します。マスクは当院一階の自動販売機でも購入できますので、お持ちでない方はご利用下さい。

咳エチケット・手洗い・うがいを心掛けて
『かからない』
『うつさない』

年末年始の診療について

12/29	30	31	1/1	2	3	4
通常診療	休診					通常診療

29日の診療は、午前にて終了致します。

急病・救急患者様につきましては、
年末年始も**24時間受入れ**を行っています。

医療法人 徳洲会　日高徳洲会病院
〒056-0005　北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町１丁目10番27号
☎ 0146-42-0701

院長の独り言

知らないと怖い糖尿病

去る11月14日は世界糖尿病デーでした。世界に拡がる糖尿病の脅威に対応するために1991年に国際糖尿病連合と世界保健機関が制定し、2006年に国連により公式に認定されました。 糖尿病は今や世界の成人人口の １割近くがかかっており、年間500万人以上が合併症などで死亡しています。 このまま進むと、 世界の糖尿病人口は、 2040年には約6億4200万人(2014年比55.0%増)に達すると予想されています。

2016年に実施された糖尿病実態調査によりますと日本には約1,000万人の「強く疑われる人」と、約１,000万人の「可能性を否定できない人」 がおり、合計で総人口の15%を超える約2,000万人の糖尿病患者および予備群がいます。医療機関や健診で糖尿病といわれた人の中で、「治療を受けていない」人の割合は、特に男性の40～49歳で最も高く、約５割が未受診または治療中断です。糖尿病には自覚症状が少ないことから、疑いがありながら放置している例が多くあることが、その要因と考えられています。（以上、世界糖尿病デー実行委員会の文書から抜粋）

日本透析学会によりますと、透析を始める原因となった疾患の第１位は糖尿病腎症で全体の43.7%にあたる16,072人でした。糖尿病性腎症は1998年に原疾患の第1位になって以来、割合が増加の一途でしたが、この数年ほぼ横ばいで推移しています。また、日本人９万人を対象にした研究では、循環器疾患による死亡は男性で 1.76倍、女性で 2.49倍、がんによる死亡は男性で 1.25倍、女性で 1.04倍でした。ラクナ脳梗塞や塞栓性脳梗塞の発症リスクも高く、正常群に比べ糖尿病群では男性でそれぞれ2.04倍と2.85倍、女性で3.85倍と4.24倍でした。

糖尿病は自覚症状の少ない「血管がボロボロになる病気」です。健診や病院受診時に糖尿病の治療を勧められたら、栄養指導を受けて、治療に参加しましょう。

糖尿病デーイベントを開催

世界糖尿病デーに合わせて、当院でも11月17日(土)にイベントを開催致しました。当日は30名ほどの方々に来院いただき、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などが食事での注意点や検査での数値の見方、予防のための健診の有効活用などの説明を行いました。　参加いただいた皆様からは、『自分が食べている食事が、意外に高カロリーで驚いた。』、『糖尿病の怖さを再認識した。』などの声が聞かれ、予防することの大事さを改めて感じている様子でした。当院では今後も、こういったイベントを通じて地域住民の健康を守っていきたいと思います。

知っておきたい!

飲み薬と点滴の違いとは

体調を崩した時には病院に受診し、点滴を受けると早く治る！そう思っている方はいませんか？実際に病院で点滴をしたおかげで体がとても楽になったという経験をした方もいらっしゃると思います。しかし、点滴は万能薬ではありません。点滴による効果、飲み薬との違いを理解して治療への理解を深めましょう。

点滴と飲み薬には３つの大きな違いが

飲み薬

錠剤や粉、カプセルなど口から飲んだ薬は、胃から腸に運ばれながら、だんだん溶けていきます。溶けた薬は小腸の壁から血液に吸収され、肝臓に運ばれて全身をまわります。

血液に吸収された薬はあっという間に全身にまわりますが、胃や腸などの消化管を通って血液の中に吸収されるまでには 15分～ 20分くらいかかるので、薬の効き目はゆるやかに現れます。また、飲み薬はほとんどの成分が小腸で吸収されるため、成分の吸収率は点滴に比べると少なくなります。

点滴

点滴や注射は、血管に直接薬を注入しますので、薬はそのまま吸収されます。速やかに全身にくまなく薬がまわり、すぐに効き目を発揮します。

このように、飲み薬と点滴には
① **薬が全身に行き渡る方法**
② **薬の吸収率**
③ **薬の効果の現れ方**
３つの違いがあります。ただし、勘違いしてはいけないのが、必ずしも**「飲み薬は弱い薬」「点滴は強い薬」であるというわけではありません。**

症状に応じて飲み薬か点滴を判断

医師は患者さんの症状や状態に応じて、飲み薬か点滴かを判断しています。飲み薬は患者さんがご自身で飲んで治療することができるため、自宅での治療に適しています。

点滴は多くの場合、『症状が非常に重篤である場合』『高齢で体力・余力がない場合』『点滴にて薬剤を使用する必要がある疾患である場合』に用いられます。具合が悪くて薬を飲むことができない場合でも、薬を体内に取り入れることができるのが点滴です。このような状態でなければ、夜間に緊急で点滴のみ受けるという必要があることはほとんどありません。

ウィルス感染への抗生物質点滴は効果がない!?

ウィルス感染に対して、抗生物質の点滴は効果がありません。風邪の約８割がウィルス感染によるものなので、風邪のほとんどが抗生物質の点滴をしても効果がないと言えます。

逆に点滴が効果的な場合もあります。脱水や細菌感染の場合などです。激しい嘔吐や、下痢が続いている場合は身体が脱水状態になっていますので、そのような時に点滴による補液を行うと、劇的に効果が現れる場合もあります。

患者様の話を伺うと、『●●病院は点滴をしてくれるのに、●●病院はしてくれない』といった声を聞くことがあります。点滴は万能薬ではなく、何に対しても、誰に対しても実施すればいいというものではないことをご理解下さい。

当院で一緒に働きませんか？

看護師・看護補助者・介護福祉士　大募集中です！

専門・認定看護師の資格をお持ちの方師長・主任経験のある方歓迎致します

【問い合わせ先】　TEL：0146-42-0701　看護部長代行　細川まで